



—— 登場人物が見た景色や感情を届ける ——

ケーブルテレビで播州音頭の映像を見た際、“これぞ日本！”と思わせる雰囲気が魅力的かつこよく感じました。その映像に仕事で関わりがあった人(現師匠)が映っていたので、すぐに連絡をし、翌週には練習に参加していました。

播州音頭は、ゆっくりな節回しで唄い舞うことが魅力の一つです。観客の方にゆっくり唄を聞かせ、物語の情景を浮かばせていただけるようにしています。

実際に観たり聞いたり、体験したりすることで、情景をより感じることができます。それは、現代になっても心に刺さるものがきっとあるでしょう。

ぜひ一度や二度、播州音頭を実際に観て聞いて、その物語に描かれた景色や登場人物の感情を感じてみてください。

社播州音頭踊り保存会 代表 中原公寿さん

播州音頭を知ってほしい

—— 節の習得には7年以上、でも、面白い ——

今から約55年前、忠臣蔵に関した音頭「かんざきよごろうあずまくだり神崎与五郎東下り」と「あまのやりへえ天野屋利兵衛」の文句(歌詞)に惹かれて、東条播州音頭踊り保存会に入会しました。文句を読むと、目の前に当時の情景がぱっと思い浮かぶのです。

他には無い、独特の節回しで、それに合わせて踊ることが特徴の播州音頭。特に、節が難しく、習得するには、少なくとも7年ほどの時間がかかります。

歌舞伎や浄瑠璃などを題材にした音頭がありますが、地域ごとの特徴を取り入れた音頭を令和5年8月に新たに制作し、播州音頭をもっと身近に感じていただけるように取り組んでいます。

地域の歴史や特徴を知るための一つの手段として、播州音頭があるということを知っていただけるとありがたいです。

東条播州音頭踊り保存会 代表 邦近従宏さん